

関東・東北豪雨の被害教訓 梅雨前に情報伝達訓練

鬼怒川の氾濫想定 自治体や住民ら

2015年9月の関東・東北豪雨で鬼怒川の堤防が決壊し、大規模な浸水被害を受けた茨城県常総市で、国土交通省など

が28日、梅雨で川の水位が上がる時期を前に、鬼怒川氾濫を想定した情報伝達訓練を実施した。国交省や自治体と地域住民が、災害時の各機関の役割や避難のタイミングを

確認した。

市内の体育館での訓練は、災害時に関係機関が事前に取るべき行動を時系列でまとめた「タイム



個人版タイムラインに書かれた行動内容を発表する住民（28日、茨城県常総市）

ライン」に沿って、氾濫の3日前からスタート。同市の2地区はモデル地区として、住民が個人版タイムラインを作成しており、約20人が参加した。

常総市の神達岳志市長は国交省下館河川事務所長からの河川情報を受け、避難情報を発令するタイミングなどを確認。住民は行政からの情報を受け、「持ち出し品の確認をする」「避難場所に移動する」といった各自の行動を確かめた。

参加した同市の男性（66）は「豪雨の時は市から情報が入らず不安だった。行政の動きが分かれば、避難行動に移れる」と話した。

青森中2自殺、いじめ引 市教委「判断でき

青森市立中2年の葛西りまさん（当時13）がいじめを訴えて自殺した問題を調べている青森市教育委員会の審議会が28日

開かれ、自殺の背景について「いじめが関わって

いるが、直接の引き金がいかに判断できない」とする報告書原案の内容を明らかにした。現在の委員は5月末で任期満了となるため、市教委は再任せず、新しい委員を任命